



東京部会(第141回)記録

日時:	2024年9月14日(土) 17:30 - 19:40
場所:	慶応義塾大学三田キャンパス東館4F オープンラボ
参加者:	会場 15名、zoom 23名、計 38名

(1) 井波祐二先生(都立豊多摩高等学校)から「公共」における消費者教育の実践」の報告があった。

- ・所属校が東京都金融教育広報員会の金融教育研究校になったことをきっかけにして開発した、「ロールプレイングで学ぶ金融商品の選択」の紹介である。
- ・マクロの金融を学んだうえで、独自に開発した「金融人狼ゲーム」に取り組みさせて、金融商品を責任をもって選択できるようにすることをねらいとした金融教育と消費者教育の観点を組み込んだ授業である。
- ・メインの「金融人狼ゲーム」は6人一組、うち3人を販売者、他の3人のうち一人が購入者、二人がサポーター役となって、販売者がセールスする投資信託の商品のなかの詐欺商品を見分ける1時間配当の教材である。
- ・今回は、会場参加者6名がそれぞれの役割を実際に演じてロールプレイをおこなった。結果は意外なもので、この教材の独自性を確認した。
- ・授業では、ゲームの後に振り返りを行わせ、金融商品の特色やリスク・リターンなどの知識を確認するとともに、なぜ人はだまされるか心理モデルの紹介や法や規制について触れるという流れであることが紹介された。
- ・また、「模擬授業の裏側」として、生徒の反応、授業をつくるねらいや背景、教材開発の苦労などに関しては配付資料に記したので参照して欲しいとの紹介があった。
- ・検討では、意外性がありユニークなゲームなので教材としてひろく紹介する検討をして欲しいという要望があった。また、ゲームのなかに、収益性をいれるともっとやりやすいのではないかなどの指摘があり、それぞれ検討したいと井波先生から回答があった。

(2) 杉浦光紀先生(都立新宿山吹高等学校)から「経済政策と日本社会－経済を考えるのに何が必要か－」の報告があった。

- ・これは杉浦先生の前任校である都立井草高等学校の「公共」での昨年度の実践である。
- ・二年生必修の「公共」での経済分野は9月の「もし経営者になったら」からはじまり、次に春の経済教室で紹介した「ファストファッションはなぜ悪いのか」を扱い、その上で、経済成長、金融・財政、日本経済のあゆみという今回の授業実践を行っているとの紹介があった。さらに、1月には各クラスで、今回の授業を踏まえた政党作り、政策立案をさせて投票するという取り組みをしたとのことである。
- ・授業は、景気がどうなっかかを問い、インフレ・デフレを紹介し、アベノミクスの取り組みを紹介、金融緩和の仕組み、アベノミクスの評価を考えさせ、経済成長の要因を考えさせるという流れである。
- ・報告では、模擬政党作りの政策立案が紹介され、さらに、学年末考査での試験問題が紹介された。この試験問題では、生成AIに日本経済をよくする方法のプロンプト(指示文)を書かせる問題と生徒の回答が紹介された。

- ・検討では、経済政策の学習と政策作りに議論が集中した。何時間政策作りに担当しているか、政治の学習との関係はどうなっているか、政策立案の振り返りはどうしているか、調べはネット経由かなどの質問があった。杉浦先生からは、政策づくりは3時間、途中で学生団体のサポートがあり、生徒はそのコメントを踏まえて考えを深めたという回答があった。また、政治学習はまとまっては行っていないが、統一地方選挙などがあったので時々にいれ



ている、政党の個々の政策に関しては評価していない、調べは冬休みの課題としたとの回答があった。それに対して、政治と経済のリンクはもっと考えないと矛盾した政策がでてくるのでしっかり考えるきではないかとの意見が
だされた、

・また、経済の知識が政策作りにどこまで必要か、矛盾している政策があるがそれをどう指摘したのかという質問には、政策づくりであきらかな矛盾に対しては生徒の相互チェックなどもあったので特に口出しはしなかったとの回答があった。それに対しては、フォローしきれないケースがあるのは仕方がないとしても間違っことを生徒が受け止めることがないようにすべきという意見が出された。

(3) 夏休み経済教室の総括があった。

① 鈴木深氏 (東京証券取引所金融サポート部課長) より、スライド資料をもとに参加者のアンケート (回答数 189 名、回答率約 40%) の分析が紹介された。内容の概略は以下の通りである。

・参加者: 大阪中学 8 月 13 日 (満枠)、大阪高校 8 月 14 日 (満枠)、東京中学 8 月 19 日 125 名+99 名、東京高校 8 月 20 日 94 名+101 名 (会場実数+オンライン実数) で、東京高校がやや少なかった。

・満足度: 約 90% が 80 点 (100 点満点) 以上で全体としては高い。

・個別の講義: 大阪～各講義に対してバランスよく非常に勉強になったとの声が多数寄せられた。東京～各講義に対して勉強になったとの声。中でも三枝氏、今村氏、安藤氏への意見が多数寄せられたとのことである。

・開催方法: 今後もオンライン形式を続けてほしいという意見多数。対面拡大要望も。

・今後の開催方法: 今年同様の形式でよい、より具体的な授業実践、専門家の意見、議論の場が欲しい等の、プログラム構成に関する幅広い意見が寄せられた。また、交流の場に関する意見、会場の環境について、資料を事前に全て欲しい等の声が寄せられたとのこと。

・参加者全員 (636 名) の属性: 関東多数で次いで近畿だが広く全国から参加している。教科は公民科、社会科が多数。校種では中学校、高等学校、中高一貫校の順。経験年数では幅広く、参加の動機はちらしが一番だが知人からの勧誘など声かけによる参加も目立っている。また、参加回数は初めてが半数、三回以上がそれに続き、二度目は少ない、との分析が紹介された。

② 杉田孝之先生 (千葉県立津田沼高等学校) から、ネットワークサイドからの準備状況の紹介や進行役を中心とした近年の内容の深化のための取組みが紹介された。その上で、夏の経済教室の振り返りから東京高校の 4 コマ目からの経済の授業のあり方のパターン分析、大阪中学 2 コマ目の地理と経済の扱いから得られる方法的知見の紹介がされた。

(4) 大杉昭英先生 (元教職員支援センター上席フェロー) から本日の実践報告に対するコメントと見方・考え方に関する解説があった。

・本日の実践は、学んだことを生かす新鮮な学びとなっている点では指導論としてはオーセンティック・ラーニングになっていた。しかし、両者とも経済からだけの判断になっていたところが課題だろう。詐欺商品のロールプレイでは、詐欺商品を扱うのは法的な問題も絡むので教材開発的に検討の余地がある。また、経済政策と政策立案に関しては、キャッチフレーズのなかに学んだ事が反映されているかが問題で、政策判断は経済の視点だけでなく、政治と結びついて考えさせる必要がある。また、ある政策を選ぶというのは政策の帰結と自分の利益と比較考量するなかで得られるので、なぜ選んだのかを語るができることが求められる。その点での授業構成の再検討が必要となるのではないかと。



経済教育ネットワーク
Network for Economic Education



・生成 AI に問うプロンプト作成させるというのは良い試み。これは見方・考え方に関わる。見方・考え方に関する理解がなかなか進んでいないという話を聞いたが、日本語で考えるより英訳した方が、理解が進むかもしれない。ちなみに、文科省では「見方・考え方」を外国で説明するときには a discipline-based epistemological approach という表現を使っている。epistemological とは認識論的ということで、世界をどう捉えるかという認識の枠組みになる。それに discipline という各分野の固有の方法論が付く。経済では think like an economist である。公民科では、対立・合理、効率・公正は見方の認識の枠組みであり、その中で分析概念が使われてゆく。経済の概念だけを取り出してそれを経済的観点だということにはならないことに留意して欲しいとコメントされた。

・今回の東京部会は、zoom を含め多数の参加者があり、会場参加者によるロールプレイ、報告に対する活発な質疑、大杉先生のコメントなど内容豊富な部会となった。(記録、文責、新井)

次回開催予定：未定 時間は未定。

場所：慶応義塾大学三田キャンパス東館オープンラボ(予定)

内容：授業実践の報告、検討など